



たより No.2

2015(H27).12.16

インフルエンザの流行が近づいてきました。

検査は早めにしましょう。

インフルエンザの感染動向

11月下旬頃より感染者数が増え、1～3月に患者数が増加、4～5月に減少していくというパターンを示します。

インフルエンザワクチンは感染予防になります。去年までは3価ワクチンが使用されていましたが、近年B型株の流行が世界的に続いているため、今年よりA型株2株、B型株2株の4価ワクチンが導入されています。

検査&治療

38℃以上の発熱が続く、インフルエンザ感染者と接触した場合などインフルエンザかな?と思ったら、すぐに病院を受診し検査をすることをお勧めします。抗インフルエンザ薬は、症状の発現から2日以内に投与開始することが推奨されているからです。48時間経過後に投与を開始した場合の有効性を裏付けるデータはありません。

またインフルエンザにかかった場合、学校保健安全法にて出席停止期間は、「解熱後 2 日経過するまで」に「発症後 5 日が経過していること」も条件に加わりました。速やかな対処が早めの登校につながります。



予防投与について

インフルエンザ患者と接触したが検査では陰性の場合、保険適用はありませんが自費診療で希望により抗インフルエンザ薬を内服することができます。

予防投与が可能なインフルエンザ薬の薬代金の目安です。

- ・ 内服薬（タミフル）： 3180 円
- ・ 吸入薬（リレンザ）： 3470 円 ・ 吸入薬（イナビル）： 4280 円

高齢者など肺炎の合併が危惧される場合には、抗生剤の投与も必要となります。